

2019(令和元)年度 JABTS 事業活動報告

1 編集委員会 尾本きよか

令和元年度は、学会誌出版に向け、委員会を開催し、7月に第8巻3号を発行した。

令和2年1月には、第9巻1号を発行した。

2 財務委員会 平井都始子 特になし。

3 教育委員会 渡辺 隆紀

JABTS42東京では

『『乳癌取扱い規約の変更(第18版)』に伴う乳房超音波検査・診断への影響』

乳腺外科：武井寛幸 日本医科大学乳腺外科

病理：増田しのぶ 日本大学医学部腫瘍病理学分野

放射線科：角田博子(臨床) 聖路加国際病院放射線科

堀井理絵(病理) 埼玉県立がんセンター病理診断科

東野英利子(講習会) つくば国際プレストクリニク

JABTS43福島では

「超音波画像と病理組織像の関係を極める①——様々なhaloと病理像」を行った。

尾羽根範員：乳房超音波画像の成り立ち——境界部高エコー(halo)を中心として

加奥節子：症例提示

柏倉由実：これってhalo? haloの判定に迷った2症例

梅本剛：症例提示

今後JABTSで行う乳房超音波基礎・インターベンション講習会の準備活動として2020.1.20に東京で小委員会会議(テーマ：乳癌学会と連携するための対策)を行った。本年度に乳房超音波基礎・インターベンション講習会の講習資料作成を予定していたが、本講習会はJABTS単独で行っても参加者は増えないと判断し、まずは乳癌学会と連携して講習会を立ち上げる準備活動を行うことにした。また、なるべく講習会準備がスムーズに進むよう乳癌学会理事の植松先生とJABTSインターベンション研究部会の亀井先生に新たに教育委員になって頂く予定である。

4 広報委員会 中島 一毅

JABTS法人化への意向など、現状の報告を行いました。

今後、新しいホームページに移行していくことになります。

5 会則委員会 古川まどか

2019年度は、JABTSはNPO法人から一般社団法人に変わるために、規約や細則を見直し更新する必要があるため、理事長、事務局で作成した原案に関して委員会の中で討議を行った。

6 国際委員会 東野英利子

1. JABTS43(2019年10月5-6日, コラッセ福島)において国際委員会企画 スポンサーシップシンポジウム 国際シンポジウム:「原子力発電所事故後の小児甲状腺癌——チェルノブイリと福島」を共催し、座長の1人を国際委員の宮川めぐみが務めた。

招待演者のValentina M Drozd氏の講演費用を国際委員会が負担した。

2. 国際委員を中心にモンゴルとの交流を行った。

①9月21日, 2nd Forum of Mongolian Society of Breast Imagingにおいて

“Breast screening by ultrasound and its quality assurance in Japan” Eriko Tohno

“Elastography” Ei Ueno

“History of Automated Breast Ultrasound” Etsuo Takada
の講演を行った。

②9月22-23日にはBreast Ultrasound Seminarを開催し、全体講義、グループ講習、画像試験を行った。講師は以下である。

高田悦雄 獨協医科大学・那須赤十字病院

植野映 つくば国際プレストクリニク

東野英利子 つくば国際プレストクリニク

柏倉由実 済生会松坂総合病院

加奥節子 大阪医療センター

国際委員以外から

亀井桂太郎 大垣市民病院

高木理恵 相良病院

詳細はJABTS44にて報告予定である。

7 乳腺用語診断基準委員会 加奥 節子

(JABTS42)

初学者にも参加しやすい形式でDCIS画像セミナーを開催した。

(JABTS43)

『検診カテゴリーと診断カテゴリーに基づく乳がん検診精検報告書作成マニュアル(日本乳癌学会編)』の発刊に伴い、乳がん検診研究部会と合同で、このマニュアルについての討論会を行った。

〈多施設共同研究〉

・BC-02(非浸潤性乳管癌(DCIS)の超音波画像分類に関する多施設共同研究)に関する原著論文「Characteristics of ultrasonographic images of ductal carcinoma in situ with abnormalities of the ducts」(坂佳奈子委員)が日超医英文誌にacceptされた(2019.10.26)。

〈その他〉

- ・『乳房超音波診断ガイドライン』の改訂の準備を進めている。『日本乳癌学会乳癌取扱い規約』の改訂、WHO Classification of Tumoursの改訂(5th edition)、JABTS乳がん検診の要精査基準の改訂に伴い、精度管理用ファントム、その他の部分を含めて現在改訂中である。
- ・『乳房超音波画像診断アトラス(仮称)』を南江堂より出版予定で、BC-02で使用したDCIS画像を用い、最新の画像も加えて分担加筆中である。初学者から中級者まで学べる学習書にする予定である。

8 甲状腺用語診断基準委員会 村上 司

1. 『甲状腺超音波ガイドブック(第4版)』への改訂作業
2. 福島県「県民健康調査」の甲状腺超音波検査への支援
3. 福島県医師会による超音波講習会及び認定試験への支援
4. JABTS甲状腺超音波ガイド下穿刺診断専門医/穿刺コーディネーター育成のための教育セミナーへの協力

9 倫理委員会 梅本 剛

理事会からの審議事項がなく、活動はありませんでした。

10 利益相反委員会 志村 浩己

- 1) JABTS「利益相反(COI)に関する指針」改正について審議し、理事会で改正案を審議し、改訂作業を終了した。
- 2) 「学術集会」の演者、「機関誌」の著者については、特に違反の報告はなかった。
- 3) 役員からのCOI申告と審議は現在実施中である。

・追加報告(令和2年4月27日)

平成30年度の「役員等の利益相反自己申告書」は112名から提出があり、8名からCOIの申告があった。

「役員等の利益相反自己申告書」提出者の中で、COIの申告があった8名については、その状態の判断ならびに助言、指導のため、個人情報保護に留意し、委員長と委員のダブルチェックで内容を確認した(書面審査にて実施)。その結果、特に問題となる事例はなかった。

11 学術委員会 東野英利子

2019年2月24日に学術委員会を開催し、

1. 委員会・研究部会の会計に関する取り扱いについて審議した。
2. 研究部会の審査を行い、問題点を指摘し、再提出を依頼することにした。
3. 委員会に関する活動・事業計画・予算に関する審査を行った。問題点を指摘し、再提出を依頼することにした。将来検討WGについては解消とし、今後は学術委員会を2回/1年開催とし、将来計画に関して話し合い、理事

会に提案することとした。

4. 次期評議委員会選出についての話し合いを行った。

12 将来検討WG 渡辺 隆紀

2019.2.11 第5回会議(昭和大学)

2019.8.18 第3回乳腺G会議(東京)

2019.9.8 第1回甲状腺G会議(東京)

〈乳腺領域〉

超音波ガイド下の穿刺手技の実技講習と、必要な知識について学ぶ座学講習をセットにした講習会の開催を予定。JABTS単独での受講者は増えない可能性が高いので、少なくとも乳癌学会との連携が望ましい。

〈甲状腺領域〉

病理検査時の超音波ガイド下穿刺の専門医制度と、技師・看護師を対象にしたコーディネーター認定制度をJABTS単独で立ち上げる予定。

13 甲状腺結節D/W研究部会 福成 信博

JABTS甲状腺D/W研究部会は、当初の目標となる症例の集積、解析を終えて世界甲状腺癌(World Congress on Thyroid Cancer)での発表を行い、“2 nd place of ePoster Presentation (WCTC 3.5)”受賞した。現在、英語論文を校正中であり、投稿予定である。2019年をもって活動を終了する。

14 乳がん検診研究部会 坂 佳奈子

①混合性腫瘍のカテゴリーの変更

混合性腫瘍のカテゴリーの変更は論文作成を行っている。検診において混合性腫瘍でのがん症例が全国調査においても極めて少ないため、これらをすべて要精査にすることで必要な精密検査が増加し、受診者の不利益が増えている可能性が高い。エビデンスに基づく改訂を行い、よりよい乳がん検診を提供したいと考える。次回のガイドライン第4版改訂において、用語診断基準委員会とともにこの点の改訂を検討し、次回のガイドラインに反映させるためすでに原稿作成も終了している。2020年度中に論文発行予定。

②検診フローチャートの論文的裏付け作業

作業は終了しており、ガイドラインの第4版の改訂にあたり、要精査の判定基準の根拠として参考文献をすでに原稿を作成し、ガイドラインに反映できるようにした。

③AIに関する企画

これからの乳がん検診の画像診断にAIはなくてはならないものになる可能性が高く、福島の第43回JABTS学術集会にて検診におけるAIの役割ということでセッションを予定し、多くのご意見をいただいた。

15 インターベンション研究部会 亀井桂太郎

2019年4月の学術集会では、インターベンション研究部会

企画として恒例となっている「ミニレクチャー」と「ケースカンファレンス：次の一手」を行った。

2019年10月の学術集会では、近年使用頻度が増している組織マーカーの種類と使い分けについて、各マーカーの特徴を提示したのちに、研究部会員、会場のスペシャリストの意見をいただいた。組織マーカーについての知識を深めることに貢献できた。

2019年7月に開催された第27回日本乳癌学会学術総会において、多数のインターベンション研究部会員の協力のもとに乳房超音波ガイド下インターベンションハンズオンセミナーを共催し、多数の参加者がエキスパートから実技を学んだ。

16 FUSION 02(バーチャルソノグラフィ)研究部会 明石 定子

1) FUSION 02「乳房MRI non-mass enhancementの乳房温存手術切除範囲決定における超音波fusion技術(Real-time virtual sonography / Volume navigation)の有用性の検証(多施設共同前向きコホート研究):FUSION 02」が主施設(愛知医大)で2019年1月にIRB通過したが、留置するクリップが適応外であることが判明したため、プロトコル修正を加えた。2019年8月に修正プロトコルが愛知医大で承認され、登録が開始された。現時点で2施設が迅速審査で承認を得て、他施設でも順次迅速審査予定である。

2) JABTS42にて研究部会企画として「Fusion 02試験キックオフ紹介」を開催した。

3) JABTS42, 43においてFusion 02の運用について会議を開催した。

17 超音波エラストグラフィ診断精度の向上と利活用に関する研究部会 椎名 毅

1. 2019年5月25日、第42回JABTSにおいて、研究部会企画ではないが、JABTSのシンポジウム「乳腺領域超音波検査におけるAI診断の現状」での講演で、乳腺超音波に関して、椎名をはじめ多くのJABTS関係者が協力して進めているAMEDでの超音波画像AI研究の紹介を行った。

2. 2019年10月5日、第43回JABTSでの研究部会企画として、以下の教育講演を実施した。

「教育講演：エラストグラフィの臨床応用」

1) カラー Doppler・エラストグラフィ手技の基本：より実践的な病理像推定のために

梅本剛(守谷慶友病院)

2) 病理像(ルーペ)から超音波像(エラストグラフィ)を推定しよう

石部洋一(水島協同病院)

3) 乳房超音波エラストグラフィ2019

中島一毅(川崎医科大学)

18 乳房超音波精度管理用ファントム自体の経時的劣化について検討する研究部会 桜井 正晃

1. JABTS41で精度管理ファントム研究部会報告を行った。
2. 改良を加えた精度管理用ファントムが完成した。
3. 完成したファントムを部員6施設で検討した。
4. 2017年6月から岐阜大医療科学大学の篠原範充先生によるファントム画像のデジタル評価が開始した。
 - ・解析対象は毎月、月末の画像。
 - ・解析項目：ターゲットとバックグランド解析。
5. 故障プローブを含めた様々なプローブで撮像したファントム画像を用いて、デジタル評価の有用性の検証を行った。
6. 画像劣化の事例の蓄積を行った。

19 乳房造影超音波における乳がんの広がり診断に関する研究部会 奥野 敏隆

2019年5月25日、JABTS42(東京、グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール)。

・会議を行った(JABTS42における報告の確認、国際学会発表を野呂がサンアントニオ乳癌シンポジウムで発表することを決定。鳥が英文雑誌に報告することを決定。JABTS43, 44でも研究内容報告することを決定。2020年度の事業継続申請を行う方針)。

・ブランドリーダーによる画像中央判定の結果について報告した(試験背景を金澤、試験結果を鳥が報告。画像を提示して解説を野間、三塚、中村が行った)。

2019年7月12日、第27回日本乳癌学会学術総会(東京、京王プラザホテル)に合わせて、JOYSOUND新宿店にて会議を行った(サンアントニオ乳癌シンポジウムに演題登録したことを確認。その他)。

2019年10月6日、JABTS43(福島、コラッセ福島)会議を行った(サンアントニオ乳癌シンポジウムの発表、論文投稿の進捗を確認。B-modeより広く染まるところの病理組織の検討ができていない。広く染まるところにTIL(tumor infiltrating lymphocyte)がないか。TILについては新たな研究部会を立ち上げることを検討)。

2019年10月29日、Skype会議(JABTS44において、「組織型別乳房造影超音波診断」のタイトルでCEUS-FLOW 01とEvergreenの合同の発表。病理と腫瘍径の比較でCEUSとB-modeのどちらが真実に近いかを検討、発表することとした。第28回日本乳癌学会学術総会にて、鳥がCEUSで過大評価、過小評価した症例の検討を報告する予定とした)。

・サンアントニオ乳癌シンポジウム発表(添付資料参照)

The Difference Between Tumor Width on a Contrast-Enhanced Ultrasound and the Extent of Pathological Breast Cancer

Aya Noro¹, Hiroaki Shima², Toshiko Hirai³, Midori Noma⁴, Takashi Nakamura⁵, Emi Sato⁶, Terumi Kaga⁷, Yukio Mitsuzuka⁸,

Keitaro Kamei⁹, Yumi Imayoshi⁹, Toshikazu Ito¹⁰, Shinsaku Kanazawa¹¹, Kumiko Kato¹², Ryuzo Sekiguchi¹³, Goro Kutomi², Mitsuru Mori¹⁴, Hasegawa Takumi², Ichiro Takemasa², Toshitaka Okuno¹⁵

・Breast Cancer誌, 論文投稿中

Comparing the extent of breast cancer tumors through contrast-enhanced ultrasound vs B-mode, opposed with pathology: Evergreen Study.

Shima and his colleague.

20 リンパ節診断研究部会 古川まどか

1. JABTS学術集会

第42回JABTS ULTRASONIC WEEK 2019として, Asian Head and Neck Ultrasound Meetingの中で, 日本のリンパ節超音波診断の歴史と現状について報告するとともに, アジアの他国(韓国, 台湾)の現状についての講演を聞き, ディスカッションを行うとともに, 今後のアジアの超音波医学発展に向けてお互いに協力していくことを確認しあった。

第43回JABTS研究部会企画として, リンパ節超音波診断の臨床研究応用とその成果に関して報告した。下記3.にあるリンパ節に関する超音波用語に関する検討, 見直しに関して報告し問題提起を行った。

2. 各リンパ節疾患のリンパ節超音波画像データ集積(継続, 多施設研究)

これまでクラウドデータベースに集積されたデータをもとに, リンパ節疾患の超音波画像集を作成するとともに, 診断に有用な特徴的所見に関して, 見直し作業を進めていくためのデータベースの環境を整えた。

3. リンパ節に関する超音波用語に関する検討, 見直しを進めた。

21 BC-07研究部会 渡辺 隆紀

・2019.6.22 BC-07第三回進捗会議(仙台医療センター)

〈参加者〉

渡辺隆紀, 坂佳奈子, 藤本泰久, 鶴岡雅彦, 白井秀明, 奥野敏隆, 広利浩一, 今野佐智代, 高木理恵, 小川ゆかり, 佐藤恵美, 森田孝子, 八重樫寛子, 渡辺良二, 阿部聡子

〈内容〉

研究登録の状況, 問題点, 画像中央判定方法などについて議論した。

・2019.8.4 BC-07画像中央判定準備委員会1(TKP東京駅日

本橋カンファランスセンター)

〈参加者〉

渡辺隆紀, 中谷守一, 柏倉由実, 伊藤淳, 東野英利子, 加奥節子, 梅本剛, 位藤俊一, 八重樫寛子, 阿部聡子

〈内容〉

画像中央判定方法などについて議論した。

・2019.11.15 BC-07画像中央判定準備委員会2(東京)

〈参加者〉

渡辺隆紀, 安田秀光, 尾本きよか

〈内容〉

8/4 参加できなかった画像中央判定委員と画像中央判定方法などについて議論した。

2019.12下旬から, 病変のインターネット上での読影開始
2020.2.29に画像中央判定委員会開催予定

22 乳癌取扱い規約に基づいた超音波画像診断研究部会 坂 佳奈子

①各参加施設での画像収集終了

聖路加国際病院, 昭和大学附属病院, 湘南記念病院, 名古屋医療センター, 相良病院での画像収集作業が11月に終了した。当初, 参加予定であったがん研有明病院に関しては院内の倫理委員会の承認を得られず, 今回は収集施設としては不参加となった。なお, がん研有明病院の國分優美部会員に関しては中央判定員としてそのまま参加する方針で進めている。

②画像中央判定委員会

第一回画像中央判定委員会を聖路加国際病院にて2019年11月17日に実施, 以降, 第二回を同じく聖路加国際病院にて12月22日, 第三回第四回を名古屋医療センターにおいて2020年1月10日, 11日に実施した。

23 甲状腺結節血流研究部会 志村 浩己

2019年度は以下の事業を実施した。

甲状腺結節のドプラエコー検査における判定基準およびFFT解析の実施プロトコルを作成。

1. 研究部会員の医療機関において, 研究計画の倫理申請を完了。
2. ドプラエコー検査判定基準の作成を目的とした前向き研究(feasibility study)を開始した。
3. 現在データ集積中である。